茶摘み

夏も近づく八十八夜

野にも山にも若葉がしげる

「あれに見えるは茶摘みじゃないか

あかねだすきにの」

つづきの今日このごろを

心のどかに摘みつつ歌ふ

「摘めよ摘め摘め摘まねばならぬ

摘まにゃ日本の茶にならぬ」

茶摘み

も近づく十夜

にもにもが

「に見えるは じゃいか

に 」

和つづきの日このろを

のどかに

「めよめ摘め摘まねば

に」